

## 今月のテーマ：サクラの開花

植物や動物の状態が季節によって変化する現象を生物季節現象といい、その現象の観測を生物季節観測といいます。生物季節観測の目的は、生物に及ぼす気象の影響を知ると共に、その観測結果から季節の遅れ進みや、気候の違いなど総合的な気象現象の推移を知ることにあります。その中で、春本番を告げるサクラの開花・満開は一般に高い関心があります。気象庁で観測の対象としている品種は、南西諸島を除く九州ではソメイヨシノ、南西諸島ではヒカンザクラです。福岡管区气象台では、構内にある標本木を観測して、サクラの開花（花が5～6輪咲いた状態）や満開（花芽の8割以上が咲いた状態）を毎年記録しています。

サクラは、前年の夏に翌春咲く花の元となる花芽を形成します。花芽はそれ以上生長することなく休眠に入り、秋から冬にかけての低温に一定期間さらされると休眠から目覚めます。これを植物学では「休眠打破」といいます。その後、花芽は春先の気温の上昇と共に生長しますが、この生長の速さは気温が高ければ速く、春先の気温が高い年には早く開花することが知られています。

福岡のサクラの開花日と、春先に対応する1～3月の3か月平均気温（以下気温とする）の経年変化について見てみましょう（図1）。サクラの開花日は、概ね気温の高い年は早く、低い年は遅くなっていて、休眠打破後の気温が開花に大きく影響していることが分かります。また、1980年代後半に気温が上昇していますが、サクラの開花日もその頃から、以前と比べて10日前後早まっています。

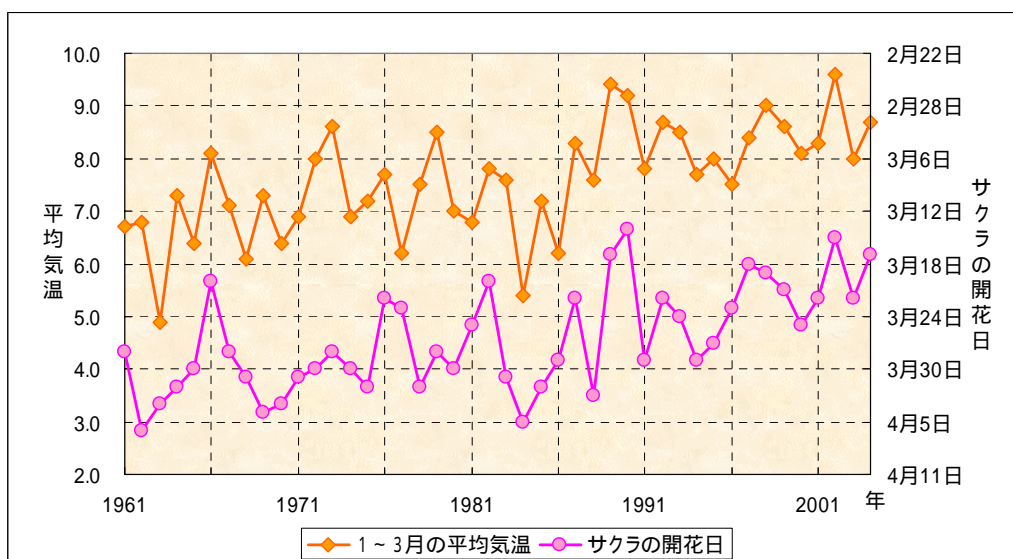


図1 福岡のサクラの開花日と1～3月の平均気温の経年変化

図2はサクラの開花日の平年値分布図を、表1は福岡管区内の各気象台におけるサクラの開花日及び満開日を示しています。図2より、サクラの開花は、おおよそ南から北へと推移していきませんが、九州では熊本県から長崎県の地域と、宮崎県の一部が最も開花が早く、その後全体に広がっていくことがわかります。細かく見ると九州では必ずしも気温が高い地域から順番に開花するわけではないのは、休眠打破に必要な秋から冬の低温が十分でない地域で開花が遅れることがあるためです。

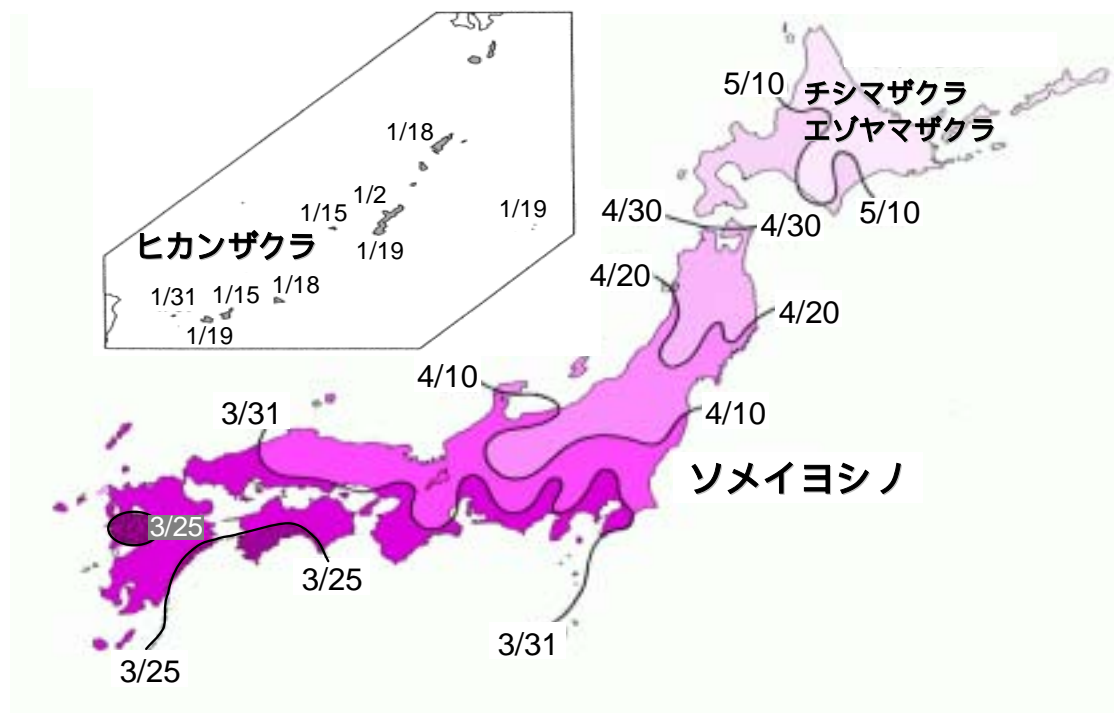


図2 サクラの開花日の平年値

表1 福岡管区内の各気象台におけるサクラの開花・満開日の平年値

	開花	満開		開花	満開
下関	3月29日	4月7日	大分	3月27日	4月5日
福岡	3月26日	4月3日	熊本	3月24日	4月2日
長崎	3月25日	4月3日	宮崎	3月25日	4月3日
佐賀	3月26日	4月3日	鹿児島	3月26日	4月3日

気象庁では社会的に関心が高いサクラの開花の予想を行っています。開花予想は、秋から冬にかけての休眠打破に影響する気温の実況値と、休眠打破後の花芽の生長に影響する春先の気温の実況値及び予想値を用いて、過去の観測データの統計に基づいて花芽の生長を推定する方法をとっています。開花予想の発表日は、第1回目が3月の第1水曜日で、その後、毎週水曜日に更新します。今年(2005年)は、3月2日、3月9日、3月16日の予定です。